

End-Year Allowance

1995年の「遊・星・人」最終号は、原始惑星系円盤の特集号となった。今年春の地球科学関連学会合同大会の時の「遊・星・人」編集委員会で、佐々木晶編集幹事の思い付き提案で原始惑星系円盤の特集号を組むことが決まった。企画編集を私が引き受けることになったが、特集号の発行はまだまだ先の年末のことなので、そのまま何も考えずに放置しておいた。そのうち京大名誉教授の林忠四郎先生が京都賞を受賞されることが明らかになった。惑星系形成論の「標準モデル」の根幹をなす「京都モデル」を構築され、常に惑星系形成の研究をリードされてきた林先生の京都賞受賞で、年末発行の特集号が、にわかに時機を得た企画に思えてきた。7月に、UC BerkelyのFrank Shuらが主催するStar Formation Workshopが台北で開かれたが、そこで遭遇した大橋永芳さんにさっそく特集号の原稿をお願いした。進展著しい原始惑星系円盤の観測の現状などについて「遊・星・人」読者層に分かりやすい解説をお願いしたところ、即座に快諾を得ることができた。また、原始星やその前段階に当たる分子雲コアの観測について解説

文をお願いできる人を探していることをお話ししたところ、大橋さんはじめWorkshopにいられていた複数の日本人参加者から、立松健一さんが断然適任であると教えて頂いた。帰国後すぐに立松さんをお願いしたところ、立松さんから即座に快諾を得ることができた。原始惑星系円盤や分子雲コアの観測の最前線におられるお二人に原稿をお願いでき、特集号の編集者としては7割がた安心を得た。行きがかり上、この特集号の序文は私が書かざるを得ないにしても、あと理論家による原稿がほしかったので、それを関谷実さんと中本泰史君をお願いした。執筆をお願いした方々には8月から9月にかけての大変暑い時期に原稿書きに励んで頂き、それぞれのご専門の立場からよい原稿を寄せて頂いた。どの記事も「遊・星・人」の幅広い読者の皆さんに分かりやすい内容となっている。原始惑星系円盤を巡る学問状況は、この特集号で十分理解して頂けるものと思う。執筆者の方々の大きな協力のお蔭で「遊・星・人」特集号の編集を終えることができ、今ほっとしてるところである。
(中川 義次)

編集委員

村江 達士 [編集長] 佐々木 晶 [幹事]

荒川 政彦 大谷 栄治 坂本 尚義 井田 茂 中川 義次 渡部 潤一 佐々木 進

早川 雅彦 海老原 充 松島 弘一 小林 憲正 高木 靖彦 加藤 学 土山 明

向井 正

1995年12月25日発行

日本惑星科学会誌 遊・星・人 第4巻 第4号

定 価 一部 1,750円 (送料含む)

編集人 村江達士 (日本惑星科学会編集専門委員会委員長)

〒812-81福岡市東区箱崎6-10-1 九州大学理学部地球惑星科学科

印刷所 〒135 東京都江東区扇橋3-5-10 星光社

発行所 〒152 東京都目黒区大岡山2-12-1 東京工業大学理学部地学内

日本惑星科学会 TEL 03-3720-9885 FAX 03-3727-4662

本誌に掲載された寄稿等の著作権は日本惑星科学会が所有しています。